

西田 1・2 遺跡

遺跡番号 西田1遺跡：381-315・西田2遺跡：381-316
調査回数 第1次
所在地 山形県東置賜郡高畠町大字船橋字西田
北緯・東経 西田1遺跡：37度59分30秒・140度9分39秒
西田2遺跡：37度59分24秒・140度9分36秒
調査委託者 山形県観光文化スポーツ部県民文化芸術振興課
起因事業 農地整備事業（経営体育成型）亀岡西地区
調査面積 10,120㎡
受託期間 令和6年5月1日～令和7年3月31日
現地調査 令和6年6月4日～12月27日
調査担当者 水戸部秀樹（現場責任者）・氏家信行・小林圭一・志鎌久悦・大村暖奈・小幡桃花
調査協力 山形県置賜総合支庁産業経済部農村整備課・高畠町教育委員会・米沢平野土地改良区
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
遺跡種別 墳墓・集落
時代 古墳時代・古代・中世
遺構 方形周溝墓・池・井戸・土坑・溝・柱穴・ピット
遺物 石器・砥石・土師器・須恵器・陶磁器・青磁・古銭・井戸枠・曲物・鋤・骨
（文化財認定箱数：西田1遺跡3箱、西田2遺跡67箱）

調査の概要

西田1遺跡と西田2遺跡の調査を同時に実施した。両遺跡は、奥羽山脈西麓から発する砂川とその支流である和田川に挟まれた低地に位置している（図1）。しかし実際は周囲よりわずかに高い地形となっており、水田ではなく畑地として利用されていた。

古墳時代・平安時代・鎌倉時代に作られた数多くの遺構が見つかり、人々の暮らしが少しずつ見えてきた。

西田1遺跡（図2～6）

平安時代（9世紀後半）に建てられた総柱の掘立柱建物（図4）が1棟見つかった。倉庫として使われたと考えられる。他には、同じく平安時代の土坑（図5）、古墳時代の溝（図3）、中世の井戸（図6）・柱穴などが見つかった。溝は集落を囲むように南北に、東西に設けられている。屈曲する部分は入口に当たるだろうか。

遺構の配置から、集落の南端部であることが予想されるので、集落の本体は調査区より北側の現在の集落と同じ場所ではないだろうか。調査区の西隣には船橋神社（春日神社）が鎮座しており、関係する遺構も含まれている

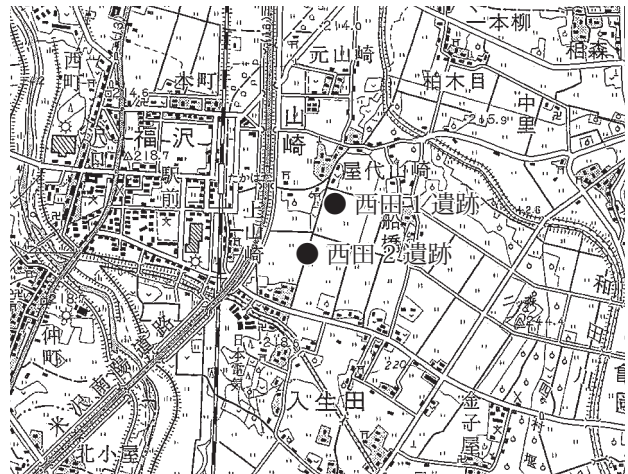


図1 遺跡位置図（S=1:50,000）

可能性がある。

西田2遺跡（図7～15）

古墳時代では、2基の方形周溝墓（図8～11）が見つかった。方形周溝墓1は、出土遺物から古墳時代前期のものと考えられる。もう一方も、近い時期のものだろう。

鎌倉時代（13世紀頃）には、数多くの柱穴、土坑、井戸（図12・13）、溝、そして池（図15）が作られた。



図2 西田1遺跡完掘状況のオルソ画像 (S = 1:400)



図3 溝内の古墳時代の土師器出土状況 (西から)



図4 西田1遺跡、掘立柱建物 (北西から)



図5 古代の土器出土状況 (南東から)



図6 中世の井戸 (東から)



図7 西田2遺跡完掘状況オルソ画像（縮尺 1/800）

無数の柱穴の存在は、かつて多数の掘立柱建物が建てられ、さらに近い場所に何度も建て替えられたことを示している。

池は庭園を構成するものであること、庭園は寺院に付属することが多いことから、この地に寺院が存在していた可能性が浮上した。このあたりを領有していた長井氏に近い人物が建立したのだろう。付近には同時代に存在した寺院として、亀岡文殊（当時は文珠寺）、資福寺、安久津八幡神社（もともとは阿弥陀堂）などが知られて

いる。

数多くの井戸が旧河道上に作られていた。旧河道部分は砂地であり、地下水が豊富に含まれている。井戸には、縦板や曲物を設置したものや素掘りのものなどがある。大型の土坑（図14）も数多く見つかった。地下水脈を探すための試し掘りの痕跡なのかも知れない。なぜこんなに多くの井戸が必要だったのだろうか。

中世の出土遺物は、瓷器系陶器や須恵器系陶器、青磁、白磁、さし銭、鋤などがあつた。



図 8 方形周溝墓 1 (南東から)



図 9 遺物出土状況 (方形周溝墓 1 西側)



図 10 遺物出土状況 (方形周溝墓 1 東側)

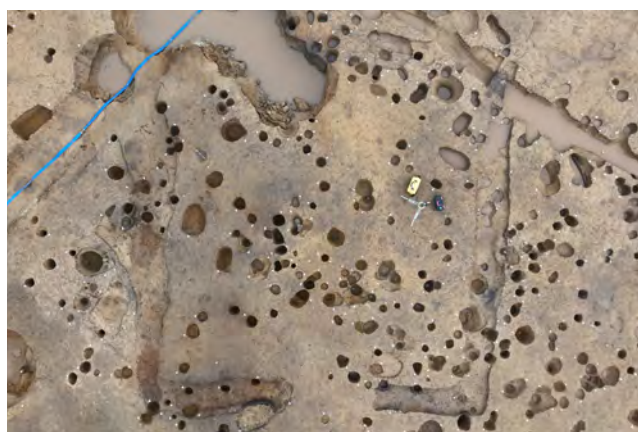


図 11 方形周溝墓 2 (南東から)



図 12 井戸枠のある井戸 (南東から)



図 13 曲物のある井戸 (北西から)



図 14 大型土坑 (北から)



図 15 池 (南東から)